

～ 特殊詐欺について～

元大阪府警警察官 田中成和 氏

6月第2例会を20日、講師に元大阪府警警察官の田中成和氏をお招きし、「特殊詐欺について」をテーマに県内の犯罪情勢と特殊詐欺の現状について、DVDの映像を交えて語って頂いた。田中氏は昭和43年奈良県の高校を卒業、大阪府警の警察官として各地の警察署や警察本部で勤務。平成22年、勤続42年で定年退職。勤続年数の3分の2が警備部門で、極左・右翼・労働の各事件捜査を担当。大阪府警退職後は平成28年までイオンリテール(株)で奈良地区保安担当部長として奈良県下に所在するイオン店舗の保安担当者を統括する仕事をされた。

【特殊詐欺とは】

まずみなさんにお尋ねします。令和4年中に奈良県内で発生した特殊詐欺被害の件数と金額はどれくらいあるでしょうか。

答えは、被害件数206件、被害金額は約4億3800万円。

全国となると、被害件数1万7520件、被害金額は361億4000万円。

特殊詐欺とは、面識のない特定多数の者に対し、電話その他の手段を用いて、対面することなく被害者をだまし、手渡しや振り込みなどの手段により被害者から現金などをだまし取る犯罪。この「特殊詐欺」という言葉は、平成16年に警察庁が命名したものである。

【特殊詐欺の手口】

毎日、いろんな手口でいろんな被害が起きている。振込め詐欺がよく知られているのが「オレオレ詐欺」「融資保証金詐欺」「架空料金請求詐欺」「還付金詐欺」。振込め詐欺以外では「キャッシュカード手交型詐欺」があり、架空料金請求詐欺と共に特殊詐欺の主流となっていて、手口は、金融機関を名乗る職員がキャッシュカードの暗証番号を言葉巧みに聞き出し、その後カードをだまし取って口座から預金を引き出す。また、「サポート詐欺」は「個人情報漏洩しています。ウイルスに感染して

いる」など偽の情報を伝え、有料のサポート契約を締結させる。

【被害に遭わないための対策】

冷静に考えればわかることなのか、どうして被害にあってしまうのか。

犯人は言葉巧みに誘導し、支払いの期限を言ってあせらせる。正常な判断ができないよう心理的に追い込んでくる。相手はプロの詐欺師なので手口を知っていてもだまされてしまうことがある。何か思い当たることがあっても安易に話に乗らない。全く無視してもいい。冷静な判断が大切。

被害者の90%が65歳以上の高齢者である。詐欺グループは闇で入手した名簿をもとに無作為に電話し老後の貯えを狙っている。被害に遭わないために、一人で判断せず家族や警察に相談してほしい。高齢で独り住まいの人がいる家族は定期的に連絡を取り合い、特殊詐欺のことを話題にする等、不安ごとがあればすぐに相談してくる関係を作っておくことが大事である。

詐欺被害の大半は固定電話にかかってくる。固定電話の防犯対策が大事。すぐ電話に出ないように在宅中でも「留守番電話」にしておく。詐欺のグループは声を録音されることを嫌うので効果がある。また、NTT西日本による特殊詐欺被害防止に向けた取組とし



て、70才以上の契約者に対し、ナンバー・ディスプレイおよびナンバー・リクエスト（非通知の電話を自動で拒否）の月額利用料・工事費が無償化とするサービスが令和5年5月から受付が始まった。（0120-931-965）

最近の新しい機能付き電話に、「スピーカーホン」というものがある。受話器を耳に当てないことで相手との距離がとれる。通話ボタンが知っている人は青色、知らない人は赤色を表示したり、怪しい電話にはストップボタンで切ることができる。

大切なのは日頃から特殊詐欺の手口について家族で話し合うことである。官庁や金融機関を名乗る相手が土日に電話をかけてくることはおかしい。オレオレ詐欺の場合では相手が電話を切ったら必ず元の電話番号に電話して事実確認する。詐欺グループのタイミングの良い電話には気をつける。電話でお金の話は詐欺です。必ず家族や警察（#9110）に相談してください。